

BEST FRIEND FOREVER



## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

その友情は次元を超えて

BEST FRIEND FOREVER

目次

1

BEST FRIEND FOREVER

『……あなたのイメージって剣一本って勝手に思ってたけど、どうやらそうでもないみたいね。だったら、私みたいに二刀流にしてみたら？』

\*

久しぶりに昔の夢を見た。まだわたしが旅人になる前、故郷での記憶。

それは誰の言葉だっただろうか。おそらくはわたしのお友達だった子の言葉だと思うけど、もう顔も名前も思い出せない。

当時はまだ戦い方なんて知らないくせに、昆虫採集してたら夢中になって気づかずに危険なダンジョンの奥まで行ってモンスターと鉢合わせたわたしを、その子が助けてくれたのが出会いだったかな。

そうだ、戦い方の基本はその子から習ったっけな。昆虫採集の行き場を増やしたくて、ダンジョンとかでモンスターから自衛できるようになりたいってわたしが言い出したんだっけ。

そういえば、確かその子は「将来は教会で働く！」って言ってたっけ。

夢、叶ったのかな？ 叶ってたら良いな。

\*

寝起きの状態から身体を起こして、とりあえず街に出てお散歩でもしながら考える。

その子との思い出は少しずつ頭の中に蘇ってきたけど、肝心の顔と名前がいつまで経っても思い出せない。

『お前が過去を振り返るなんて珍しいじゃねえか、ネプテューヌ』

「クロちゃんもそう思う？ わたしも過去はあんまり振り返らない主義なんだけど、夢を見ちゃったからどうしても気になっちゃってさ」

『俺がお前と会ってからのことなら俺が覚えてるだろうけど、それ以前のは俺にはわかんねえな』

「だよーねー」

そう、わたしは過去は振り返らない主義！ 故郷に未練が全くないわけじゃないけど、今はクロちゃんと一緒に旅をしてる方が楽しい。けど、自分が大事に思っていた友達のことを忘れてしまったというのは、少し寂しいなあ。

「……見つけたわよ！」

そんなことを思っていると、急に誰かに腕を掴まれた。

「わわっ！ なに!?? ってあいちゃんか」

「……ごめんなさい、間違えたわ。あんた大きい方ね。小さいネプ子も今日も仕事をやらずに逃げたから、イストワール様たちと協力して追いかけてたのよ」

「もー、小さいわたしとわたしを間違えるなんて、あいちゃんはこの次元でもおっちょこちよいなんだからー」

「……あれ？ わたし、今なんて言った？」

「この次元？ あい……ちゃん……？」

「……あ……」

『もう、なんで丸腰の人間がダンジョンなんかで迷い込んでるのよ』  
『ごめんごめん、いやあ昆虫採集に夢中になってたらしいのまにかこんなところに来ちゃったんだよね。とりあえず、助けてくれてありがとうー！』

『どういたしました。これに懲りたら一人でこんなところに来ないこと』

『はーい！ そうだ、自己紹介が遅れたね！ わたしの名前はネプテューヌ！ 君は？』

『私は……』

「……わたしの記憶の中、黒塗りだったその子の顔が鮮明になっていく。」

「間違えたのはわたしだから何も言い返せないわ……って、ちよっ！

どうしたの!?? なんて泣いてるの!??」

「え？ わたし……泣いてるの？」

「どう見ても泣いてるじゃない！」

「ええと、な、なんでもないよ！ そうだ、小さいわたしを追いかけに行かないの？」

「なんでもなくとも、泣いてる知り合いを放っておけるわけないでしょー！」

「そっか……」

……全部、思い出した。

わたしの大好きだったお友達の名前。

その子の名前は……

『……アイエフ。ゲームギョウ界に咲く一陣の風よ』

\*

「大丈夫？ 落ち着いた？ じゃあもうわたしは小さいネプ子探しを再開しに行くけど、本当に大丈夫よね？」

「大丈夫だよ。そんなに心配しなくていいから！」

「そう……ならいいけど。じゃあ、またね」

「うん！ じゃーねー！」

久しぶりに人前で泣いちゃった。ちよつと恥ずかしい。

けど、涙を出し切って気分が落ち着いたら、わたしの中で一つの決意がまとまった。

「ねえクロちゃん」

『わかってんよ。お前の故郷の次元だろ？』

「うん。座標とか分かる？」

『いつかお前がそう頼まれるんじゃないかって、データを残してあるんだよ』

「ありがとう、クロちゃん」

『へっ』

「じゃあ、お願い」

『わかった。てか、帰るってことは旅は終わりか？』

「そんなわけないよ。少し帰るだけだから」  
わたしの、大好きだった……いや、今でも大好きな友達に会いにね  
!